

ここから広げよう!! 各学部の先生からのオススメ本 READING LIST

人文学部 松岡 幹就 先生



今井むつみ [著]
『英語独習法』
(岩波新書; 新赤版 1860)
岩波書店, 2020年12月
[所在] 図・開架・PB
[請求記号] 830.7/143

「靴下に穴が開いていて恥ずかしい」を I am shy to find a hole in my sock. と言ってしまうなど、日本人英語学習者によく見られる誤用例を挙げながら、母語についての暗黙の知識が外国語学習に大きく影響することを認知科学の視点から分かりやすく解説している。最新のオンラインツールを使った学習方法の紹介や練習問題も備えた実践向けの一冊。

教育学部 松本 昭彦 先生



山本聡美 著
『闇の日本美術』
(ちくま新書; 1356)
筑摩書房, 2018年9月
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 721.02/Y31

中世までの絵巻物を中心に、絵巻中に現れる「闇にうごめく存在」を見つめる。具体的には、「地獄・鬼と怪異・病・死・断罪・悲しき女」の各項目に分け、多くの絵巻の中からそれらがどのように描かれ、意味づけられるかを考察する。仏教思想を背景にしたテーマが多いが、後白河上皇の森羅万象の把握への意思など、政治的・文化的特徴を視野に入れながら、日本美術の側面を丁寧に見取る。

医学部 柘屋 正浩 先生

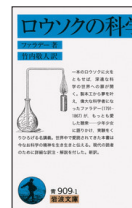


ジャレド・ダイヤモンド [ほか述];
吉成真由美インタビュー・編
『知の逆転』 (NHK出版新書; 395)

NHK出版, 2012年12月
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 040/C47

「現代最高の知性6人が熱く語る」というキャッチコピーに惹きつけられた。本書に登場する6人の専門分野は異なるものの、共通して語られているのは、「個人が様々な事に興味を持ち、自由な発想で考えを巡らせることの重要性」である。そして、事実に基づいて物事の本質を限りなく見極めようとする彼らの真摯な姿勢に感銘を受ける。将来の方向性を模索している方には刺激的な一冊である。

工学部 元垣内 敦司 先生



ファラデー著; 竹内敬人訳
『ロウソクの科学』
(岩波文庫, 青(33)-909-1)

岩波書店, 2010年9月
[所在] 図・開架・PB
[請求記号] 430.4/F15

ファラデーの電磁誘導の法則など電気分野では著名なファラデーは、化学分野の研究者でもあった。この本はファラデーが1860年にイギリス王立研究所で行ったクリスマス講演の講義録である。青少年にロウソクの燃焼について実験を交えながら講演をしている。ファラデーの偉大さも学べ、理科教育の生きた教材になる名著である。当時の少年少女、市民になりきってこの講演を聞いてほしい。

生物資源学部 五十嵐 洋治 先生



藤田紘一郎 著
『残念な「オス」という生き物』
(Forest 2545 shinsyo, 131)

フォレスト出版, 2018年10月
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 469/F67

私達の社会では近年ようやくLGBTなど多様な性への理解が進みつつある。一方で、生物界を見渡すと雌雄同体の生物もいれば、はたまたメスのみで生殖行動を行う生物がいるなど、その性のあり方は実に多様性に富んでいる。本書は生物のオスが子孫を残すために必死な(残念とも言える)行動をユーモラスに紹介しつつ、私達人間の性のあり方について考えるきっかけを与えてくれる一冊である。

教養教育院 長濱 文与 先生



松下佳代 著
『対話型論証による学びのデザイン: 学校で身につけてほしいたった一つのこと』

勁草書房, 2021年2月
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 375.1/Ma88

対話的論証とは、ある問題に対して、他者/対立意見/先哲の考え方などと対話しながら、根拠をもって主張を組み立て、結論を導く活動のことである。特定の分野や場面を超えて必要となる力であると本書は述べている。我々が避けることのできない「思考」という認知活動について、一つの型として習得すると共に、自分なりのバリエーションを発掘するきっかけにしてはどうだろうか。